

平成29年度 新規事業候補箇所の選定の考え方

平成29年3月7日

国土交通省 北海道開発局

新規事業候補箇所の選定の考え方

1. 北海道の一般国道全線(約6,400km) 【1,689区間】
 ○全国道路・街路交通情勢調査の区間毎に分割

2. 現道課題の大きい箇所の抽出 【322区間】
 ○現道課題(以下の①～④の何れかに該当)
 ・主要渋滞箇所 ……①
 ・混雑度 ……②
 ・通行規制区間 ……③
 ・津波浸水想定区間 ……④

3. ストック効果の最大化のため、優先的に 【256区間】
道路の機能向上が必要と考えられる区間を設定
 ○ストック効果最大化
 ・物流アクセス性、観光アクセス性、医療アクセス性

4. 事業実施状況や周辺道路網の整備状況 【170区間】
 ○事業完了・事業中箇所の整備効果や、高規格幹線道路の整備状況等を確認した上で、新たな対策が必要と考えられる区間を選定

5. 事業実施環境等の確認 【1区間】
 ○対策工の方針が決定され、都市計画決定、環境影響評価等の事業実施環境が整った区間から、各事業の事業効果や緊急性、社会的情勢、予算の状況等を踏まえ、新規事業箇所を選定

平成29年度 新規事業候補箇所の選定結果
一般国道36号 白老拡幅

区間抽出の視点

項目	指 標		
2. 現道課題	渋滞	主要渋滞箇所	北海道渋滞対策協議会において主要渋滞箇所に選定された箇所
		混雑度	混雑度が1.25以上※かつ車線数2以下 ※ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態
	防災	通行規制区間	事前通行規制区間および特殊通行規制区間のうち、通行規制実績がある区間
		津波浸水想定区間	北海道防災会議で検討された津波浸水想定の対象区間のうち、通行規制実績がある区間
3. ストック効果最大化	物流アクセス性	農業産出額や漁業生産額、工業製品出荷額等が多い市町村から、苫小牧港及び最寄りの国際拠点港湾または重要港湾へのアクセス時間最短経路上の区間	
	観光アクセス性	観光入り込み客数(北海道外客、訪日外国人客)の多い市町村から、新千歳空港及び最寄りの空港・フェリー港へのアクセス時間最短経路上、または宿泊客が多い市町村間を相互に結ぶアクセス時間最短経路上の区間	
	医療アクセス性	市町村役場から高次医療施設へのアクセス時間最短経路上の区間	

北海道における直轄事業の新規事業候補箇所

凡例	高規格幹線道路	一般国道
開通区間	——	——
事業中区間	■■■■	■■■■
調査中区間	○○○	○○○



一般国道36号 白老拡幅